

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年4月17日】第161号



## ルールを守って

中休み、昼休みになると、たくさん子どもたちが教室から、グラウンドへと集まってきます。1年生から5年生までそろった今年度は、今まで以上にグラウンドがにぎやかです。2年生と4年生は、登下校やグラウンドへの往復で職員室の前を通りますが、「廊下の左側を一行に歩く」というルールがあります。昨年度まではこのルールを守れない子どもが多かったように思いますが、今年度は、ルールを守れる子どもがほとんどです。走ってしまう子どももいますが、注意をすると素直に走るのをやめることができます。昨年度は、「急いでいます」とか「走っていません」と言い訳や屁理屈を言う子どもが多かったのですが、今年度は違います。また、3年生、4年生、5年生では運動靴の靴紐がほどけている子どもに靴紐がほどけていることを伝え、すぐに立ち止まって靴紐を結びなおすこともできます。世田谷通りから登校してくる子どもたちは、左側を一行に歩くことになっていますが、すなおにルールを守っている子どもばかりです。混雑する時間帯ですから、ルールを守ることは安全のためにも必要なのです。

ルールを破ることは恥ずかしいことです。言い訳や屁理屈で逃げようとするのも、恥ずかしいことです。新年度がはじまってまだ一週間ですが、学年を問わず、子どもたちがルールを守ろうという意識を持つようになったことは素晴らしく、子どもたちの成長を感じています。

## 1年生ってかわいいです

1年生と手をつないで登校してくる上級生がいます。姉妹なのかもしれませんし、毎朝会って、仲良くなったのかもしれません。「1年生って小さいな」と言う子もいます。「1年生ってかわいいです」という2年生もいます。ちょっと前まではこの子も1年生だったのに、と思うとほほえましく思います。「あそこで、1年生が転んでいます」と教えにきてくれる子どもたちもいます。1年生を迎えて、1年生を守ろう、助けようという気持ちになった上級生がたくさんいます。1年生は上級生に見守られています。そして上級生はかわいい1年生の存在によって、成長しているのでしょう。

## 給食は食育

農大稲花小の給食は始業式の日 4月7日(金)から始まりました。初日はチキンカレーライス(玄米ごはん)、春キャベツのコーンサラダ、フルーツカムカムジュレ和え、そして牛乳でした。10日(月)は、たけのこごはん、さわらの西京焼き、新ごぼうのごまサラダ、花ふのすまし汁、美生柑(ジューシーオレンジ)と春らしい献立です。好き嫌いのある子どももいますし、食べられないものに対して慎重な子どももいます。本校では、完食を求めることはありませんが、なじみのない食べ物であっても、一口試してみるように声掛けをするようにしています。友だちがおいしそうに食べているのを見て、食べてみる子どももいます。食材の説明を聞いて、興味をもつ子どももいるでしょう。

13日(木)は、ごはん、トビウオのメンチカツ、ブロッコリーときのこのサラダ、きんぴらごぼう、なめこのみそ汁、そして牛乳でした。食前にはパワーポイントで、トビウオが大きな胸鰭で海中から飛び出し100メートルも滑空することを説明しました。お店で、調理される前のトビウオを見られると、さらに理解が深まるでしょう。



4月7日(金) 給食



4月10日(月)



4月13日(木)

## キャンパス探検

農大稲花小の1年生は、2019年4月に入学した1期生から毎年、東京農業大学世田谷キャンパスを訪問します。4月14日(金)も、クラスごとに経堂門からキャンパスに入れていただき、アカデミアセンターの屋上から小学校を見ることができました。小学校のテラスには主任の先生が立ち、アカデミアセンター屋上に並ぶ子どもたちのヤッホーの声に旗を振ってくれました。また、子どもたちは、屋上の太陽光パネル、集光機、屋上庭園を見たり、都内の景色を楽しんだりしました。次にキャンパス中庭に行き、メタセコイアの大きな木を見て、メタセコイアの実を拾ったり、ちょうど落成の日であった国際センターの中にある榎本武揚先生の胸像を窓から見たりしました。

こうして子どもたちは、「東京農大の小学校」の子どもであるという気持ちを持つようになります。「榎本先生」や「横井先生」にも親しみをもつようにもなるでしょう。そしてさらに子どもたちには、大学の教職員や大学生にも見守られているという安心感も、持ってほしいと思います。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子